

何気なく周りの風景を見回してみると、畑などで石が積まれている、土が盛り上がっているところがあるのに気付くことがあります。これは実は、古墳の場合があります。ふつう古墳は、甲府市下曾根町の銚子塚古墳や八代町の岡・銚子塚古墳といった大きな前方後円墳を想像すると思いますが、高さが四、五メートル程しかない円形の小さな古墳もつくられています。

一宮町の京戸川・大石川流域から金川流域までの地域では、そんな小さな古墳をよく目にする事ができます。この地域は、古墳時代後期（約千四百年前）の横穴式古墳が数多く見つかっている場所として知られています。

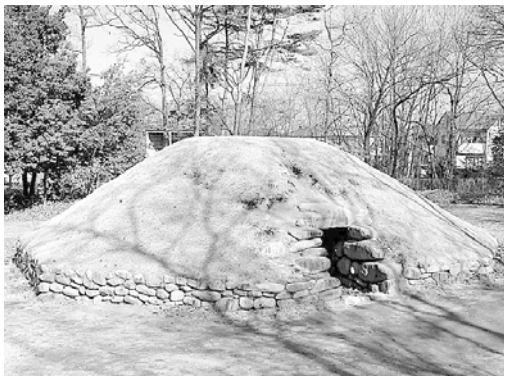
この地域の主な古墳には、稲荷塚古墳、経塚古墳、千米寺・石古墳群、国分古墳群があります。

稲荷塚古墳は、一宮町塩田の金川右岸に位置しています。古墳の上や周りに置かれる埴輪には、主に円筒形をした円筒埴輪と、人物や動物、家や武器等を模した形象埴輪があります。山梨県では、埴輪、特に形象埴輪がほとんど見つ

訪 探 市 吹 笛

シリーズ 第13回

小さな古墳



金川の森公園に復元された経塚古墳

かつていないのですが、この古墳では、朴訥とした表情をした人物埴輪を含む3体分もの形象埴輪が発見されていて、非常に貴重な例です。

経塚古墳は一宮町国分の金川右岸（金川の森公園内）にあります。この頃の古墳は一般的には円形をしています。この古墳は八角形をしています。八角形の古墳は全国的にも珍しく、平成6年には県史跡に指定されています。この形には、「八角形」が特別な意味を持つ仏教の思想や、当時の中国の政治思想といった何らかの意図が込められていると考えられています。

千米寺・石古墳群は一宮町千米寺付近一帯の京戸川右岸にあります。現在35基の古墳が確認されています。かつては68基の古墳が存在していたといわれています。

国分古墳群は一宮町国分付近一帯にあります。現在でも約110基の古墳が残っていて、かつてはより多くの小古墳が群集していたといわれています。

古墳は地中に埋もれていない遺跡です。普段なかなか目にするこ

とのできない遺跡も、古墳ならじかにその形を目の当たりにする事ができます。この地域には、古墳群の他にも、縄文時代中期の大集落であり、数多くの土偶や美しい模様が描かれた土器が見つかったり、釈迦堂遺跡や、この地域が甲斐国の文化の中心地だったことを示す国分寺・国分尼寺跡といった文化財も存在しています。4月には辺り一面に桃の花々が咲き誇ります。一時、桃の花に囲まれながら歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

笛吹市教育委員会 社会教育課



畑の中に位置している千米寺・石古墳群